

References

Insurance

野村総研が開発
システムを採用
PCA生命、契約管理で
英アールデンシヤル
グループのピーシーエー生
命保険は三日、野村総合
研究所が開発した生保の
契約管理システムを導入
すると発表した。保険の
種類にかかわらずシステ
ムを一本化。新規契約や
契約の保全などを総合的
に管理でき、新商品の開
発時のシステムの拡張に
も対応しやすくなる。来
年に予定する新商品の発
売に合わせて導入する。

Nikkei Financial Daily
December 4, 2003

PCA Life Insurance

- Built contract management system -

- Supporting aggressive business expansion in Japan
- Built system on Windows platform
- Created web-based user interface and electronic forms for internal company use
- “Object Works for .NET” used for development framework
- NRI Data Services responsible for system operations

Insurance

Established new subsidiary “Instechno”

- Acquired business of independent systems developer STS -

- Acquired business of STS, which specializes in developing and building systems for non-life insurers, to strengthen systems development for the insurance industry
- Established new subsidiary “Instechno” as a wholly owned subsidiary to take over this business; capitalized at JPY495 million

保険システム会社

野村総研、営業権を取得

野村総合研究所は十二月一日付で独立系システム開発会社、エスティーエス(東京・千代田、野崎博社長)から営業権を譲り受ける。エスティーエスは損害保険会社向けのシステム開発・構築に強みを持つが、過剰投資などから業績が悪化していた。協力関係にある野村総研が事業を引き継ぎ、保険業界向けのシステム開発を強化する。高は約十二億円。営業権

野村総研は受け皿となる新会社「インステクノ」を全額出資で設立した。資本金は四億九千五百万円。エスティーエスの従業員約八十人や、技術や顧客情報も引き継ぐ。新会社の売上高は五年後に二十四億円を見込む。エスティーエスは生命保険会社などのシステム村総研が事業を引き継ぎ、保険業界向けのシステム開発を手がけており、二〇〇二年十一月期の売上高は約十二億円。営業権

野村総研は受け皿となる新会社「インステクノ」を全額出資で設立した。資本金は四億九千五百万円。エスティーエスの従業員約八十人や、技術や顧客情報も引き継ぐ。新会社の売上高は五年後に二十四億円を見込む。エスティーエスは生命保険会社などのシステム村総研が事業を引き継ぎ、保険業界向けのシステム開発を手がけており、二〇〇二年十一月期の売上高は約十二億円。営業権

Nihon Keizai Shimbun, Morning Edition
November 25, 2003

Securities

UFJと野村総研

2005年 国債の決済代行 清算機関連稼働に併せ

UFJ銀行と野村総研は共同で、二〇〇五年に国債清算機関連稼働するのに併せて、国債取引の決済代行業務を開始する。国債の約定から決済照合に至る決済業務と、会計処理など事務を代行するクリアリングバンク業務を始めるのは国内で初めて。UFJは業務の外部委託を担うことで手数料収入の拡大を狙う。(国債清算機関連「三」参照)

証券会社など金融機関についても、取引約定後の業務を委託することで決済制度改革に伴うシステム投資や事務コストを削減できる。

UFJ銀行は金融機関が保有する国債を預かり、受け渡し事務や保管業務を代行する。野村総研は約定、決済照合など証券会社の事務に関するシステム構築を担う。

野村総研の事務システムをUFJ銀行の決済代行システムに接続し、取引のデータを受け取ったUFJが国債清算機関連のネットバンキング(相殺)を代行し、日銀ネットを使用した国債の決済をまとめて処理する仕組み。この仕組みを使えば、国債取引での翌日決済(T+1)も可能になる。

証券会社や機関投資家など金融機関は約定したデータをUFJ銀行に送れば、照合や清算、振替決済など決済事務をすべて委任できる。すでに外国証券会社が外部委託を

複数の金融機関の決済を相殺する国債清算機関連稼働すれば、金融機関は取引の約定や照合をするためのシステム構築に多額の投資が必要となる。取引件数が少なくても、人件費がかかるなどの問題もある。

クリアリングバンクとなるUFJ銀行を利用すれば、国債清算機関連に直接システム接続する必要がなくなる。手数料は一件あたり千円から数千円にとどまる見込みで、大幅にコストを削減できる。

UFJ銀行は手数料ビジネスを伸ばすが狙い。今後、「国債」や「コーポレート債」などの決済代行業務も検討する。

Providing Japan's first full-scale clearing bank services

- Launching settlement services for government bond trading -

- Seamless link between I-STAR and UFJ Bank's government bond settlement service
- Plan to start services in 1H 2005 with the scheduled launch of the Japan Government Bond Clearing Corporation
- Plan to launch new transfer and settlement system for general bonds in October 2005 and respond to securities settlement system reform, including paperless stocks and shorter settlement times

Nikkei Financial Daily
 December 10, 2003

“ePartner” agreements with seven firms

(As of December 31, 2003)

Japan (five firms)

- ✓ ARGO21 Corp.
- ✓ Cube System Inc.
- ✓ HIMACS, Ltd.
- ✓ VIC TOKAI One more firm

China (two firms)

- ✓ SinoCom Software Group Limited
(New: Hong Kong)
- ✓ Shanghai Chuwa Software Co.,Ltd.
(New: Shanghai)

野村総研

中国2社と提携

システム構築など委託

野村総合研究所は二十 軟件（上海市）と中訊ソ
四日、中国のソフト開発 フトウェアグループ（香
会社二社とシステム構築 港）。両社からは従来、
分野での業務提携契約を 証券関連システムの開発
結んだと発表した。要件 で協力を得ているが、契
定義や基本設計などシス 約を結ぶことで今後は保
テム構築の上流業務を含 守業務なども委託する予
めて委託する。

「eパートナー契約」 社と契約している。最終
を結んだのは、上海中和 的には十五社程度まで契
約先を広げる。

Nikkei Sangyo Shimbun
December 25, 2003

This document contains statements that constitute forward-looking statements. These statements include descriptions regarding the intent, belief or current expectations of the Company or its officers with respect to the consolidated results of operations and financial condition of the Company.

Such forward-looking statements are not guarantees of future performance and involve risks and uncertainties, and actual results may differ from those in the forward-looking statements as a result of various factors.

The Company does not undertake to revise forward-looking statements to reflect future events or circumstances.